

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1293600027		
法人名	特定非営利活動法人秋桜		
事業所名	グループホームうさぎの家		
所在地	千葉県印西市小林1644-1 (電話) 0476-97-0968		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月31日	評価確定日	5月31日

【情報提供票より】(21年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12人	常勤	6人, 非常勤 6人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 2階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費25,000円 理美容代・おむつ代等 実費	
敷金	有(300,000円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無		
食材料費	朝食	350 円	昼食	600 円
	夕食	650 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,600円	

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.5歳	最低	78歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	もとの金城クリニック、住吉整形外科クリニック、千葉新都市ラーバンクリニック、佐倉デンタルクリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR成田線小林駅から徒歩8分の場所にあり、住宅、神社、畑に囲まれた閑静な佇まいの中にある。住民参加と助け合いの精神のもとに、地域に根ざした介護サービスが提供され、「家庭的な環境のもとで安心と尊厳のある生活」が実現できるよう、代表者・管理者・職員が一体となって取り組んでいる。近隣の農家から取り寄せた米・野菜等を使っての食事は季節感にあふれ、美味しく、食事の準備も入居者自ら手伝える人が中心となって行われている。職員も共に食事することにより、暖かい家庭的な雰囲気が感じられる。個別の状況にあわせた認知症ケアはもちろん、ターミナルケアも含めきめ細かなケアが実践されている。入居者の穏やかな表情やあたかも自分の家庭にいるかのような様子から、代表者と管理者、職員の努力の成果が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の要改善点は特になかった。グループホームのモデルになっているだけあり、日々、スタッフ会議等で発生した問題点を検討し、改善に取り組んでいる。今後もより一層のサービスの維持と更なる質の向上とが期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員一同で話し合い、自己評価の書類をみんなで閲覧・記入できるようにし、ホームのありのままの姿を記載するよう努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回定期的に開催している。参加者は入居者、家族、地域住民代表、市職員(印西市保健福祉部介護課)・印西市介護相談員というメンバーで構成されている。活動計画、現状、評価結果を報告し、当該メンバーから指摘された意見をくみ取り、サービス向上に生かしている。市が実施している月1回の地域ケア会議に出席し、意見交換をすつとも、介護保険の申請時入には居者と共に出向き、市職員が入居者と接する機会を設けている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	寄せられた意見等は、必要に応じケア会議で取り上げ解決に向けて取り組んでいる。相談、苦情に対する常設窓口として相談担当者を置いている。家族へは折に触れ、日常生活の様子や健康状況を知らせている。また、「秋桜だより」や家族会では日々の暮らしぶりや職員の異動情報を伝えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の住民とは挨拶や会話を交わし、親しい付き合いをしている。地域の自治会には法人の代表が入っており、老人クラブには入会・参加している入居者もいる。地域の夏祭りでは、ホームは駐車場の提供に協力し、入居者・職員は地域の人々と交流しながら楽しんだ。保育所にも月1回訪問している。認知症高齢者100万人キャラバンのサポーターとして、認知症のことを理解してもらうよう積極的に情報を発信している。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住民参加と助け合いの精神のもとに地域に根ざした介護サービス」を理念としている。個々の「私シート」等を活用したセンター方式を取り入れて、きめ細かくサービス内容を吟味し、「あたり前の生活」ができるよう日々考え実行している。今後も理念に基づいたケアの継続を目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念についてスタッフ皆で話し合い「みな家族」を意識して一人ひとりに合ったケアを目指し実践している。玄関入り口には、倫理綱領、目標、方針が掲示されており、通用門には方針が示されているが、文字を大きくするなど工夫がされると更に多くの人にホームの理念等が伝わると思われる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会で行っている催し物・行事へ入居者と共に参加している。地域の夏祭りの際は、ホームの駐車場を休憩所として開放し、職員も入居者も積極的に地域の人々との交流を楽しんだ。地域の保育所で毎月1回訪問活動をするなど、近所の保育園やボランティア協議会と交流を図り地域密着に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議の中で評価の意義について説明し、スタッフルームに自己評価の書類を置き、自由に記入できるようにした。改善すべき点については、会議で話し合い、記録にも残し改善に取り組んでいる。今後は、自己評価に日々改善に取り組んでいる内容等を加えると更に良いと思われる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員(印西市保健福祉部介護課)、民生委員、町内会、家族会代表が委員になり、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。活動計画やホームの現状報告、外部評価の結果報告を行い、会議の中で出された意見はサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が月1回開催している地域ケア会議に出席し、意見交換をしている。介護保険の申請など入居者と共に市役所へ行く機会を捉え、市との連携の強化を図っている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者のその時々状況に応じて電話や、家族の来訪時の面談で、個々の日常生活の様子や健康状況を報告している。また定期的に発行される「秋桜だより」では入居者の暮らしぶりを報告し、職員の異動状況は家族会で知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との信頼関係が築かれ、面会時等ありのままに意見・要望を職員は聞くことが出来ており、日々のケアに取り入れている。相談担当を決め、ホームへの相談苦情に対する常設の窓口を設置している。また、外部機関への相談苦情窓口が重要事項説明書に記載されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	内部研修の一環としてスタッフの交換研修を実施し、職員が法人内のどの事業所に異動になっても柔軟に対応でき、入居者へも大きなダメージにならないよう配慮している。		職員の異動状況は「秋桜だより」に掲載し家族へは報告しているが、入居者・職員間の付き合い期間が長く、みな家族のような気持ちを持っていることが十分推察できるので、異動等が生じた際に、入居者や家族に対してよりきめ細かい配慮が必要と思われる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修計画表をもとに定期的に研修を実施している。内部研修では職員が講師になり勉強会を開催するなど相互育成に励んでいる。外部研修は経験年数、キャリアにより必要な研修に参加させ、会議時に報告してもらい、資料は回覧している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に積極的に参加し、その場での情報・意見交換をしている。他のグループホーム見学も行っており、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者、家族から聞き取ったアセスメントの情報をアセスメントシートに分かりやすく記入し、職員全員で共有している。また、本人および家族のペースに合わせて時間を調整しながら徐々に馴染めるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員が手芸の得意な入居者に教わりながら身の回りの小物を一緒に作ったりすることもある。入居者は介護されるだけの存在ではなく、職員とともに支えあっていることが窺がえた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の思いや暮らし方の希望、したい事を一人ひとりから聞き取っている。言葉でうまく表現できない入居者には生活を支えるためのアセスメントシート、センター方式を家族にも活用してもらい、日常の中から入居者の意向が把握できるように努めている。「入居者にとって最善であること」を大切にしている。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントで入居者の希望や得意としていることを把握し、家族の思いや職員の気づきが反映されるようにスタッフ会議で検討している。作成された介護計画書の内容を全スタッフが把握している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状況は、業務日誌、個別記録により把握されている。定期的に見直しをするとともに、入居者の状況に変化が生じた場合には、随時見直し、新たな計画書を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険内のサービスだけではなく、通院支援など入居者の状況や家族の要望に応じて馴染みの職員が柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム提携の医師はいるが、希望により、もともとのかかりつけ医の受診も支援している。インフルエンザの予防接種等は職員が付き添っている。胃ろうを必要している入居者には個別に適切な支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者、家族が希望している終末期への対応は、状態の変化ごとにくりかえし話し合いがされ、入居者、家族、医療関係者、ホーム間で方針を共有し、意思確認書でも確認している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ会議でプライバシーの確保の勉強会をし、入居者一人ひとりの尊厳が守られる対応をしている。個人情報のファイルは、所定の場所に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ホームの人はみな家族」の思いのなかで日々生活している。初詣、夏祭りなど日本の文化を大切にするとともに、一人ひとりその日にしたいことを聞きながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜が近隣から届くこともあり、季節が感じられる食卓になっている。入居者は職員と話しをしながら、食事を作り、盛り付け、片付けをしている。入居者は食事を楽しみにし、職員も一緒に食卓を囲んでいた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて調整し入浴が楽しめるように工夫している。毎日入浴する入居者もいる。寝たきりの人には、職員の人員が多い時間帯に2人体制で支援している。入浴を拒む入居者には無理強いせず、スタッフを替えたり時間を変えるなどの工夫しながら対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯、後片付けなどそれぞれの力を発揮してもらえ役割を持ってもらい、スタッフも感謝を言葉で伝えている。習字や手芸を楽しむ入居者もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を好む入居者が多いので 病状の不安定な入居者以外は、ドライブや近くのスーパーへの買い物、散歩に付き添うなどほとんど毎日外出の支援をしている。また家族と定期的に出かける人もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間だけ施錠し日中は鍵をかけていない。自由な暮らしを支えるという理念にそった支援をしており、地域の人が入居者を見かけ知らせてくれることもある。安全対策として位置検索できる探知機を入居者に持ってもらっている。今後もさらに安全面の配慮と見守りが期待される。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時にあわてずに行動できるよう月1回防災事項のチェックを実施し、2ヶ月ごとに避難訓練を行なっている。訓練後の反省会は入居者と共に行なっている。訓練日は地域の人たちにも事前に連絡し、折りあるごとに協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに適切な食事が提供され、水分摂取も含めた毎回の状況をチェック表に記録している。入居者の状況にあわせ食物の形態、介助方法、食器を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るく、居間には入居者それぞれのソファが置かれ、思い思いに過ごしている。台所からは食事の準備をしている音や、ご飯の炊ける匂いがする。居間からウッドデッキに出ると近くの神社が見える広がりのあるスペースになっている。壁には入居者の作品や、行事の写真等が貼られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好みの物や生活の仕方に合わせ、家族の写真等を飾る等個性が生かされた居室になるように配慮されている。		